校で授業を行い、小学校教員が参観 方法について話し合った上で、中学

吉川中学校

藤井校長

お互いの指導方法の良さ

した。児童生徒の成長に応じた指導 授業の準備に小学校教員も参加しま

また、中学校の道徳科にお

いて、

吉川小学校

長谷川校長

中学校教員の協働による はコミュニケー 徒会と協働して行う中で、児童生徒 準備や審判などの運営を中学校の生 軽減することをねらいとしました。 の環境に慣れることで児童の不安を 交流の機会を増やすとともに中学校 校で行いました。児童生徒、教員の 【小学6年生の感想】 学校行事を中心に交流を行いました 小学校の運動会やその予行を中学 中学校へ早く行きたく なった。来年も小学校 の運動会を見たい。 ・ションを深めていま (市)学校再編室

す。

る「9年間のつながったカリキュラ 向けて取り組んでいます。 教育を通して、それらの力を身に付 の一貫性や温かな見守りの基盤とな けた「三木市のめざす15歳」の実現に 「創造力」を育成するため、 抜くために必要な「主体性」「協働性」 そのためには、小・中学校の指導

の積極的な交流活動が重要になりま ム」をはじめ、児童生徒や教員同士

ました。

アドバイスの言葉をかけたり

めようと頑張っている小学6年生に

応じた取組を検討しながら、順次、 教育実践推進校」に指定し、9年間 小中一貫教育を根付かせていきま 全学校と共有し、それぞれの地域に 小中一貫教育の良さや効果を市内の の実践的な取組に着手しています。 の子どもの学びと育ちを支えるため 地域の4つの小・中学校を「小中一貫 令和4年度より、別所地域と吉川 キュラムづ

学教員)による研修を行いま くりや交流活動のポイントについ 今回は実践推進校の取組について 実践推進校では、カリ 小中一貫教育アドバイザ

市では、変化の激しい未来を生き 、小中一貫 り、リーダーとしてグループをまと 加し、小学生に読み聞かせを行った 「なかよし班活動」に中学1年生が参 児童生徒の交流を行いまし 別所中学校区(別所中学校・別所小学校) 小学校で学年を超えて交流を行う

【中学1年生の感想】

小学生と交流して、改 めて、自分が中学生で あることを自覚し直 すことができた。

富んだ音楽発表や学習発表を楽し 中学校の文化祭に小学6年 バラエティ

場所を回り、先輩の学習ノ 後は、中学生と一緒に校舎内の展示 生が参加しました。 み、給食も中学校で食べました。午 また、

を取り入れたり、つながりを意識し たりしながら授業に活かしていくこ

とが重要だと確認しました。

校長の想い

行い、児童生徒の成長に応じた

今後も相互交流や出前授業を

大切であると考えています。 の児童生徒や教員同士の交流が 最大の目的ではなく、その前後

指導方法を探求していきます。

築いていくことができます。

学校行事を一緒にすることが

向けて、連携・協働しながら取

児童生徒や教員が学校行事に

り組んでいく過程で、関係性を

に加え、教育委員会が今後取組を進めていく上で、考慮すべ き要件として「子ども人口の推移」「地域住民の学校に寄せる 思い」「モデル校での検証の必要性」「未来における学校の担 う役割の変化」などの意見が出されました。

書」を作成し、教育委員会に提出していただく予定です

なお、第1回からの協議会の様子については、市ホームペー ジでご覧いただけます。



協議会の様子



## 小中一貫教育推進協議会を開催

施設一体型小中一貫校の設置に向け、「将来の学校像」や「子 ども像一について多角的な視点で意見をいただくため、学識 経験者や地域、保護者、学校の代表者で構成する小中一貫教 育推進協議会を発足し、協議を進めています。

第3回の協議会では、施設一体型の先進校を訪問し、教育体 制や施設の特徴を十分把握した上で議論を進めました。

これまでにも、三木市の学校設置に関する将来的な方向性

協議会には、本年度中に委員からの意見を集約した「意見

▲三木市の小中一貫教育 についてはこちら



### シップや自尊 思っています もらいたいと 心を伸ばして

リント、美術作品などを見学しまし

# 担当教員の想い

と感じています。 たとともに、中学生の自尊心や思 校のつながりの大切さを再認識 いやりの心を育むことに繋がった 今回の交流では、 小学校と中学

年間眠らせてしまっている「もっ 交流できる場を増やし、リ たいなさ」を感じました。 を発揮する中学1年生を見て、 また、小学生にリ -ダーとして活躍する感覚を 今後も

ダーシップ

【小学6年生の感想】

中学校の学習内容

や学校行事の様子

が少し分かって、安